

**琴** 奏者として、シンセサイザーとコラボし、ニュー舞里音を結成しています。琴で社会貢献や国際貢献をしたいと思います、自分から施設などに向いてポピュラーな曲をボランティア演奏などを行っています。今回カルチャーパーク・アートフェスティバルに参加して、苦小牧にすばらしいアーティストがいっぱいいるのに感激しました。市のアーティストバンクに登録したことで、色んな演奏会に参加させてもらって、一つ演奏することで次の演奏会につながったりと、活動の場が広がっています。教育委員会のアウトリーチ推進事業で泉野小学校でも演奏会をしていましたが、これからもっと幼稚園や学校にアピールしていきたいですね。7年前に札幌から転居して来たとき「苦小牧は文化のまちだよ」と聞いていたので、文化不毛の地と今初めて聞いて驚きました。



伊藤さん

きに来てもらうような工夫をしています。私が小学生のときに苦小牧で開催された「ミレー展」でも衝撃を受けまして、将来音楽でなければ美術を専攻したいと思ったほどでした。解っていて行くことも良いですが、何も無い状態で行くことも、心を育てるためにはすごく良いことなのでないかと思えます。気軽に触れることが大切ですね。

島山さん

**苦** 小牧のみならず北海道、また全国で活躍されている方や、苦小牧生まれ、苦小牧育ちの方、途中から苦小牧市民になった方もいらっしゃると思いますが、みなさん実際の活動の中で苦小牧が決して文化不毛とは思っていないというお話を聞かせていただきました。これからは文化不毛というイメージから脱皮するため、苦小牧のカルチャーに気軽に触れていただく仕組みが大切ですね。

市長

**本** 名は河原忠敏で書道は啓雲の名で活動しています。自分の書活動をしながら子ども達にも指導者育成にも力を入れていきます。文化の定義は難しいですね。生活の中、社会の中で人が集まりコミュニケーションが生まれ、みんなの心が豊かになり、その上で社会が成り立つようなものが文化かなと思います。苦小牧が文化不毛ってのも何度か聞いてますが、携わる人に温度差があることが不毛へ繋がるのではないかと思います。今までの話を聞いていたら、皆さん熱いので安泰じゃないでしょうか。書道界も決して札幌や東京より苦小牧は遅れてると思われていないんですね。子どもは会員数を持つてるせいか、苦小牧は盛んなところって思われてるんです。



河原さん

テーマ 活動の原点・やりがい・苦労話

**き** っかけは、小さい頃からピアノを習っていたこともあり、高校のときに音楽を始めたことです。音

島山さん

**現** 在の音楽活動の原点は、留学先のパリで佐渡裕さんが指揮する演奏会で衝撃を受けたことです。やりがいは佐渡さんのいるシエナの演奏会、誰でも楽しめるようにすごく考えられた演奏会で、観客の拍手や笑顔で自分も泣いちゃうくらい感動するんですね。苦労は、お客さんに合わせて演奏することや、飽きさせないように続けていくこと大変ですが、常に自分が新しいことを取り入れていきたいです。今は、市内の小学生から大人まで、クラリネット好きの90人が月に1回集まって、世代を超えて演奏する「クラ吹きいっす」という活動を始めました。色んなレベルの人が集まっているのでまとめるのが大変ですが、クラリネットは楽しいんだって思ってもらえるように継続していこうと思っています。5年後、10年後の苦小牧の吹奏楽が楽しみです。

黒岩さん



市長

**皆** さんそれぞれの分野で活躍されているのですが、その世界に足を踏み入れ今の活動に至った原点と、現在活動されている中でやりがいや苦労話などをお聞かせください。

**私** は道東の上湧別出身で、クラリネット奏者として東京に拠点を置くシエナ・ウインド・オーケストラ

黒岩さん

**僕** は金属を主にした彫刻や工芸をしています。市内では樽前アーティストという活動をしていて、色々な作家を道内から樽前に集めて地域を生かした美術展を開催しています。僕は全国を回ったりもしているんですが、苦小牧は文化で遅れをとっていると思わないですね。興味のある人の割合はどのまちなもあまり変わらないと思います。今年で樽前アーティストは8年となりますが、徐々にみなさんの関心が増えてきました。興味のある人を増やしていくには非常に時間がかかるという印象ですね。



藤沢さん

**本** 日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。今回は文化をテーマに苦小牧の文化を支え、引っ張っていただいている皆さんとお話しさせていただきます。まず最初に、ご自身の活動と、その活動の中から苦小牧における文化のイメージを聴かせてください。



市長

テーマ 苦小牧の文化のイメージ

**苦** 小牧は「文化不毛の地」と小さな頃から聞いていたのですが、自分も市長になって、文化あるいは様々なことにチャレンジしておられる市民の皆さんが非常に多いと感じていました。

市長

**専** 門はソプラノの音楽家で、自分の演奏会のかたわら声楽とピアノを教えています。10年くらい前に苦小牧に帰ってきたとき、コンサートを開くのも、お客さんを集めるのも大変だったんですね。クラシックというところで敬遠される方がいっぱいいらっしゃるんですけど、少しずつPRして、コンサートに足を運んで下さる方や、助けて下さる方が増えてきて、ここ数年は文化不毛のイメージはまったくなくなっています。「クラシックは敷居が高い」で終わるのではなくて、解りやすいことを伝えて、コンサートに聴

島山さん

ラに所属し、東京で演奏しながら苦小牧で色んな人に指導をするような生活をしています。結婚を機に苦小牧に住んで早3年ですが、指導を始めた中学生達がとても成長していて、中学校だけではなく高校も活気付いてきて、生徒の表情や雰囲気もものすごく変わってきています。楽器が上手になるだけじゃなく人間的に成長しているのが解ります。仲間とか指導者との出会いもあります。素質のある子がたくさんいるという印象です。

黒岩さん

**私** は小さい頃から琴を始めて若い頃に名取りをとって、長年邦楽の舞台に立つてきたんですけど、琴の普及のために、みなさんの知っている曲を演奏したいと思い、シンセサイザーの方と組んだのがきっかけです。苦労話としてはやっぱりお琴

市長

大を卒業してからもまだまだ勉強したいと思い、レッスンを続けているのですが、芸術って止まっちゃいけないのですよね。私自身一生かけて勉強して、その過程を皆さんに演奏会でお出しすることが、自分の成長に必要なことだと思います。けれども、苦小牧に帰ってきて、発表の場がなかったんです。こんな思いを他の人にさせたくないと思って、地元でもみなさんに聞かせられるようにと構想を練って新人音楽祭を苦小牧で立ち上げました。これをどうにか10年間続けていきたいですね。あとは、ひとつのコンサートというだけで堅苦しく思うのではなくて、コンサートに来たから美術や書が観れたとか、まったく別のジャンルと繋がりのある関係がたくさんできれば良いと思います。



市長

**私** は小さい頃から琴を始めて若い頃に名取りをとって、長年邦楽の舞台に立つてきたんですけど、琴の普及のために、みなさんの知っている曲を演奏したいと思い、シンセサイザーの方と組んだのがきっかけです。苦労話としてはやっぱりお琴

伊藤さん

島山さん

特集

Special Edition

市長対談 文化を語ろう！

詳細 文化振興課 ☎32-6752 秘書広報課 ☎32-6108

昨年11月15日に、苦小牧を拠点として文化芸術分野で活躍するみなさんと市長が語る市長対談を開催しました。苦小牧における活動や、これからの苦小牧の文化について皆さんの意見を聴かせていただきましたので紹介します。

市長対談参加者

- 書家(書道 啓心社) 河原 忠敏さん
- 造形家(工房LEO) 藤沢 レオさん
- 琴奏者(ニュー舞里音) 伊藤 麗子さん
- 音楽家(島山 洋子音楽教室) 島山 洋子さん
- クラリネット奏者(シエナ・ウインド・オーケストラ) 黒岩 真美さん
- 苦小牧市長 岩倉 博文